

「家がいいね」 第121号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2014. 6. 9

私は何を残せるか？

まだ観ていませんが、林業を扱った映画が上映中です。

『WOOD JOB! (ウツジヨ

ブ) 神去なめなあ日常』

今は津市に合併した美杉村が舞台になっているそうです。

40年前の私の状況を思い

出しました。祖父と父が残した雑木林に、友人たちと入り込み、伐採・植林と毎日汗をかく仕事の日々でした。身体を動かすことで、頭の中が軽くなった気がしました。自分に結果が出ずとも、子孫の代に何かを残す使命の仕事としました。

しかし木を育てるのは大変です。成長し下枝が張って間伐が必要になっても、時折に森林組合に依頼するぐらいしかありません。故郷の岐阜に残る友人も、林業や農業だけでは生活してゆけないところばしります。境界も定かではなく荒れるばかりの林を、誰に託すか悩み続けています。

子、孫の世代の話を、本気でしましょう

守り伝えてゆくことが、かなり困難な世の中を私たちは作ってきたようです。考えたら、私にも今住んでいる土地や家に、子や孫が住み続けてくれるかという確信がありません。便利さをさらに求め、より都会へと出てゆくからです。26年後の2040年の推定で出産可能な年代の女性の数が、今の半分以下になり「消滅可能性」もある自治体が半数という報告がされました。大都市圏への流出は止まらず、そこでは結婚・出産・子育ては容易ではなく少子化は、さらに進行する。加えて、11年後の2025年は、団塊の世代が75歳を超え高齢社会のピーク到来と言われる。伊勢市には観光も必要だが、11年後、26年後をどうするか考えないといけない。地域生活機能を、どのよう守り育てるかは、待ったなしです。



(C) 2014 WOOD JOB! 神去なめなあ日常 製作委員会



それなのに使い捨てと集中化の政治

6年後の2020年には、オリンピックを招致し、リニア新幹線を13年後の2027年に開通させるなど、東京への1極集中化は激しくなるばかりです。今の政治は中央に権力を集中し、経済優先の視点で、子や孫の世代に辛い解決と負担を押しつけてゆくことを省みません。近い成果を追い求めるのは「木を見て森を見ない」ことです。人をモノとして使い捨て続け軍事的危機を煽るのは、将来の国民の生活危機を隠すためとも思えます。在宅医療は生活の場での実践ですので、個人がバラバラにされる社会的貧困が垣間見えます。必ず家族同士の支えが大事になります。無理なく通える距離に、まず住まなければいけませんね。

6月15日(日) 講演会

三重県総合文化センター(津) 午後1時 青木新門さん講師 映画「おくりびと」に繋がった「納棺夫日記」作者として、**いのちのバトンタッチ**の講演をいただきます。最期の時こそ、おくる人・おくられる人には信仰が必要と語られます。

臨時の休診のお知らせ

研究会へ出張のため
7月12日(土) 19日(土)

を臨時休診します。

お盆の間の休診期間の予定は

8月13日〜15日です。

この間も在宅患者さんへは、当院看護師や医師が対応いたします。



Ise home care clinic

いせ在宅医療クリニック

自宅での人生を
最期まで支援します

〒516-0805
三重県伊勢市御園町高向 927
電話 0596-20-8104
ファクス 0596-20-8105

メール homecare@kr.tcp-ip.or.jp
ホームページ <http://isezaitaku.com>